

町理事者、議会の格別な御支援、御協力と編集に直接たずさわって下さった委員や、事務局の皆さんの大変な御苦労の賜であると深く感謝している。この町誌を一人でも多くの方々に読んで頂き、土居町がどのような姿に生長発展したか、これからのように皆んなの力で発展させていけばよいか、歴史を尋ね未来を志向して明るく、住みよい、健康で幸せな町づくりのため前進されることを祈って止みません。

昭和五十九年二月一日

土居町教育長 奥定俊雄

## 目次

発刊のことば	町長	安藤弥寿男
発刊を祝して	町会議長	村上 勝正
町誌の刊行にあたりて	教育長	奥定 俊雄

### 第一編 自然

第一章 土居町の概観	四
第二章 地質	五
第一節 地形概観	五
第二節 地質概観	六
第三節 海岸山地	七

第四節 中央構造線……………一〇

第五節 扇状地……………一二

第六節 三波川帯……………一五

第七節 地殻変動について……………一七

第三章 生 物……………一九

第一節 植 物……………一九

    1 赤石の高山植物……………一九

    2 微笑(みしよう)……………一九

第二節 野 鳥……………二一

第三節 その他の生物……………二三

## 第二編 歴史

第一章 先史・古代史……………二七

第一節 緒 言……………二七

第二節 先史時代(奈良朝以前)……………三二

第三節 奈良朝……………五〇

第四節 平安時代……………五三

## 第二章 中世史……………六〇

第一節 鎌倉時代……………六〇

第二節 足利時代(室町時代)……………六二

## 第三章 近世史(藩政時代)……………七〇

第一節 西條誌による各村々……………七一

第二節 藩政(藩主)のこと……………七五

    1 一柳氏時代……………七五

    2 松平氏時代……………七五

    3 大庄屋および庄屋……………七五

第三節 大庄屋および庄屋の歴史……………八四

## 第四章 近代史(明治時代)……………九二

第一節 明治維新と旧村々事情……………九二

    1 幕領紀(抄)……………九二

    2 西條藩誌(抄)……………九二

第二節 明治一七年の村々事情(伊予国宇摩郡地誌抄)……………九六

第三節 土居町地名考

..... 一五

第四節 農民のくらし

..... 一三一

第五節 戦争、事変

..... 一三三

- 1 西南事変
- 2 台湾出兵
- 3 日清事変
- 4 北清事変

- 5 日露戦争

第六節 行政の変遷概要

..... 一三六

- 1 新旧町村名及旧石高表
- 2 町村名一覧
- 3 字地、地名考

- 4 郡役所設置後の状況

第七節 明治の商業と鉱業及び交通

..... 一三九

- 1 商業
- 2 鉱業
- 3 交通

第八節 関川堤防の決潰と復興

..... 一四一

第九節 東予地方にあつた災害記録(風雨記録)

..... 一四三

第五章 大正時代

..... 一四五

第一節 旧村の状況

..... 一四五

第二節 大正初年の宇摩郡

..... 一四九

- 1 宇摩郡の郡市区画および面積
- 2 石鎚山系
- 3 河川

- 4 海岸
- 5 鉱物
- 6 戸口
- 7 交通
- 8 海運

- 9 通信
- 10 産業

第三節 大正時代の交通

..... 一五四

- 1 概要
- 2 陸運
- 3 海運
- 4 通信
- 5 鉄道の開通

- 6 道の変遷
- 7 港

第六章 昭和時代

..... 一六五

第一節 土居町の歴史

..... 一六五

- 1 緒言
- 2 神社仏閣

第二節 風土記、地誌類

..... 一七〇

第三節 満洲事変

..... 一七三

第四節 愛国婦人会

..... 一七四

第五節 帝国在郷軍人会

..... 一七五

第六節 大政翼賛会

..... 一七六

第七節 太平洋戦争

..... 一七七

第八節 町村合併とその後

..... 一七八

第七章 神社、寺院の存亡……………一八二

第一節 神社記録……………一八二

第二節 神社……………一八二

第三節 愛媛県神社誌(抄)……………一九五

1 愛媛県神社誌(抄) 2 神社誌結び

第四節 諸神道教会……………二〇四

第五節 寺院……………二〇四

1 村々地誌、風土記(抄) 2 寺院関係総括表

第八章 戦没者名簿……………二二〇

附 録……………二六一

- (一)埋蔵文化財について (二)橘島(伊予二名集) (三)土居村風土記 (四)さく女のこと (五)貞亨四年宗派改め文書 (六)「嘉霊宮」についての古文書 (七)天満村明細書抜書 (八)明治維新史をつくった二人の郷土人 (九)好井家文書(文久元年記録帳) (十)金集史保暦と河内国西琳寺について (十一)金毘羅詣でと信仰のあと

第三編 産業経済

第一章 土居村誕生前の産業経済……………三一九

第一節 西條誌から見た郷土(産業、経済)……………三一九

第二節 宇摩郡地誌(明治一七年調)から見た土居町……………三三三

第三節 土居町の旧村々の産業、経済……………三四〇

第四節 合併前の土居町の概要……………三七四

第二章 新生土居町の概要……………三七八

第一節 合併直前の概要……………三七八

第二節 合併について……………三八三

第三章 合併後の状況……………三九三

第一節 農業……………三九三

1 天領分 2 西條領 3 明治以後

第二節 林業……………四〇七

第三節 商工業……………四二三

第四節 鉱業・工業……………四三三

第五節 畜産業……………四三四

第六節 水産業……………四三六

第七節 公害……………四三九

第八節 観光……………四四一

附録 統計からみた土居町のすがた……………四四五

第四章 土居町農業協同組合の歩み……………四四八

第一節 農業協同組合が生れるまで……………四四八

第二節 農業協同組合の誕生……………四五〇

第三節 町内七農協大同合併……………四六八

第五章 土居町商工会……………四八〇

第六章 鑑札……………四八四

### 第四編 政治

第一章 総論……………四八九

第二章 行政区画の変遷……………四九〇

第一節 章論……………四九〇

第二節 古代の始まり……………四九三

第三節 明治以前……………四九四

1 大化改新と土居村 2 駅家の位置及び軍印 3 綿種を伊予国に栽  
培 4 村山神名神の由緒と政治 5 新立庄園 6 室町、戦国時  
代 7 藩政時代(江戸時代) 8 享保の飢饉

第四節 明治以後……………五一四

1 伊予国幕末各藩の動き 2 天領の動き 3 西條藩から西條県へ  
4 明治初期の伊予国内各県の分合 5 石鉄県の行政 6 第一回特設  
愛媛県会 7 西條藩、幕領の動き 8 愛媛県庁の看板

第三章 町政の動き

五二七

第一節 村々の概況

五二八

第二節 選挙

五四〇

1 各種選挙の投票率

2 国会議員

3 県会議員

4 歴代町

長・助役・収入役・議長・副議長

5 歴代町会議員

第三節 町財政上の主な事業

五五二

第四章 治安と消防

五五三

第一節 治安

五五三

1 藩政時代の治安

2 維新後の治安

第二節 消防の変遷

五六〇

1 消防組

2 警防団

3 消防団

第五章 保健・衛生

五六二

第一節 売薬

五六三

第二節 伝染病

五六四

第三節 水道行政

五六六

第四節 ごみ処理施設

五六七

第五節 し尿処理施設

五六八

第六節 火葬場

五六九

第六章 福利厚生

五六九

第一節 国民年金等

五七〇

第二節 社会福祉事業

五七三

1 老人福祉

2 生活保護法

3 児童福祉

4 母子福祉

5 身体障害者福祉

6 住宅

7 共同募金及び赤十字募金運動

8 衛生年表

第五編 教育

第一章 教育の現状

五八一

第二章 教 育	五八七
第一節 この地の教育史	五八七
第二節 昔の教育	五八八
第三節 寺子屋と塾	五九〇
第四節 明治以前の当地の状況	五九一
第三章 明治以後	五九四
第一節 明治以後の教育、学制頒布	五九四
第二節 旧村の統合と学校	五九九
第三節 実業教育の進展	六〇〇
第四章 敗戦と六三制の発足	六〇五
第五章 社会教育の推移	六〇七
第一節 戦前、戦中、戦後の社会教育	六〇七
第二節 六三制実施とP、T、A	六一一
第三節 同和教育の進展	六一二
第四節 公民館活動と文化財保護並に児童委員	六一四
第六章 教育行政と教育委員会	六一六
第一節 教育委員会	六一六
第二節 学校の統合と委員会	六一一
第三節 幼児教育その他	六一三
附 学校別略年表	六一七
附 土居町教育史略年表	六三四

## 第六編 文 化

第一章 庶民の生活	六四一
第一節 現 代	六四一
第二節 昔の暮らし	六六三
第三節 大正から昭和へ	六七三

第二章 文化財……………六八三

- 1 横尾城趾
- 2 入野すき原
- 3 医王寺跡
- 4 誓松
- 5 東禪寺城趾
- 6 大川の大樟
- 7 熊谷桜
- 8 金伽羅寺
- 9 尾崎星山墓
- 10 大福寺
- 11 八雲神社
- 12 八雲琴主の墓
- 13 大地山古墳
- 14 漣痕化石
- 15 風留古墳
- 16 薦田義清の墓と
- 17 銅鉾
- 18 丸鍬古墳
- 19 村山神社
- 20 一柳陣
- 21 お作池
- 22 大空古墳群
- 23 一茶の寛政紀行
- 24 橋の下
- 25 社寺一覧

第三章 信 仰……………七二〇

- 第一節 大師信仰……………七二〇
- 第二節 辰己……………七二六
- 第三節 荒神信仰……………七二七

第四章 土居市、誓座……………七二七

- 第一節 土居市……………七二七
- 第二節 誓座……………七二五

第五章 民話、伝説……………七二九

- 1 柚の平四郎
- 2 南光院快盛法印

第六章 芸能、文芸……………七三七

第七章 方 言……………七三八

- 1 外国からきた方言
- 2 現在も使われている方言

第七編 人 物

第一章 近藤篤山……………七四七

- 1 篤山の生い立ち
- 2 別子での勉学
- 3 尾藤二洲に学ぶ
- 4 昌平費に学ぶ
- 5 川之江に塾を開く
- 6 小松侯の賓師となる
- 7 篤山と郷土
- 8 生涯稽古



## 第二章 中山琴主

七五四

- 1 八雲琴の創作
- 2 八雲琴の普及
- 3 京都での琴主
- 4 八雲琴譜の編纂
- 5 帰郷と死

## 第三章 真鍋豊平

七五九

- 1 生いたちと一絃琴
- 2 豊平の長歌
- 3 豊平の晩年

## 第四章 尾崎星山

七六三

- 1 星山の出生と勉学修業
- 2 星山の国事奔走
- 3 西條藩に登用せられる
- 4 帰臥して塾を開く
- 5 書家としての星山
- 6 七〇の賀
- 7 星山と古銭
- 8 星山の死
- 9 星山の名について

## 第五章 続木君樵と村上鏑村と西山小林

七七三

- 1 続木君樵
- 2 村上鏑村
- 3 西山小林

## 第六章 山中好夫

七七七

- 1 山中家
- 2 山中好夫の蓄財
- 3 実業家としての山中好夫

- 4 山中好夫と政治
- 5 山中好夫と公共事業

## 第七章 村上五郎

七八四

## 第八章 合田福太郎

七八七

## 第九章 木村敬二郎

七九三

附記 木村先生の逸話

七九七

## 第一〇章 安藤正楽

八〇〇

- 1 安藤正楽の歌碑
- 2 正楽の家族
- 3 上京と勉学
- 4 再婚と勉学
- 5 政治家となる
- 6 反戦の碑
- 7 三度上京史学を研究する
- 8 人類学を研究する
- 9 退京を命ぜられ帰郷する
- 10 春日井水道を設ける
- 11 正楽の芸術
- 12 正楽の死と宗教

## 第十一章 高橋信太郎

八一五

## 第十二章 赤星ラインの開発者曾我部友吉

八一六

## 第十三章 山中鬼子男

八二一

- 1 出生
- 2 青年時代の勉学
- 3 政治を志す 村長として
- 4 中
- 5 百軒マラソン
- 6 県議としての活躍

第四章 山内繁雄 ..... 八二八

- 1 医師として
- 2 社会事業への貢献

第五章 坂之内池を築いた寺尾つた女 ..... 八三一

- 1 坂之内池
- 2 寺尾家と「つた」
- 3 坂之内池の築造
- 4 水路と隧道
- 5 結び

第六章 歌人白木豊 ..... 八三七

- 1 生い立ちと、小学校教師
- 2 閑谷中学校での教育
- 3 広島高等師範学校教授として
- 4 故郷の中学校長
- 5 上京、大学教授に
- 6 尾藤二洲伝の著述
- 7 歌人として

第八編 年表 ..... 八四九

附録 引用文献書目

編輯後記